

2024年度保田研究会シリコンバレー特別学習研究プロジェクト

(C)研究会合宿・研究会が主体となった学術交流活動

概要

2024年8月21日から27日にかけて、慶應義塾大学総合政策学部保田隆明教授の指導のもと、保田研究会特別プロジェクトが米国シリコンバレーで開催されました。このプロジェクトは、慶應SFC学会からの助成金を受けて実施され、参加学生たちの学術的な知識の深化と実務的示唆を得ることを目的として行われました。プロジェクトでは、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校にてMBAコースの説明が行われ、スタンフォード大学では向井教授、筒井教授による講演が行われました。また、日本企業の現地法人を訪れ、講演が行われました。

研究成果

本プロジェクトでは、数多くの講演やワークショップを通じて、学生たちはシリコンバレーにおける新規事業立案やイノベーション創出のアプローチを学びました。その際、シリコンバレーで採用されている手法と日本における取り組みとの違いを、アカデミックおよび実務の両面から検討し、新規事業エコシステムの構築に向けた学術的および実務的な示唆を得ることができました。

アカデミック的視点

スタンフォード大学を訪問し、同大学の教授によるアントレプレナーシップ教育に関する講演と、MBAプログラムのプログラムマネージャーからの詳細な説明を受けました。この講演を通して、スタンフォード大学のMBA学生がどのような教育を受けているのか、彼らが起業家として成長するためにどのようなサポートを受けているのかを具体的に学ぶことができました。

次に、カリフォルニア大学バークレー校を訪問し、同大学のスタートアップ育成プログラムについての講演を受けました。スタンフォード大学との比較を行うことで、大学内におけるスタートアップ育成の異なるアプローチを理解することができました。さらに、日本の大学におけるスタートアップ育成プログラムについてのディスカッションを通じ、どのように日本の教育機関がスタートアップを支援できるかについて深く考察する機会となりました。

実務的視点

実務的な観点からは、シリコンバレーのIT企業で活躍する日本人社員による講演を受け、日米の企業文化や事業開発の違いについて学びました。この講演を通じて、シリコンバレーではいかに柔軟な環境がイノベーション創出に寄与しているかを理解し、日本企業との違いについて学生間でディスカッションを行いました。

さらに、ソースネクスト社の松田社長による講演では、日本企業の中でも経営者がシリコンバレーに移住し、現地で新規事業を開発するケースについての具体的な事例が紹介されました。松田社長は、シリコンバレーの環境が新規事業開発に与える影響や、企業内での組織の在り方についても詳しく説明し、特に経営層のリーダーシップがどのように企業全体のイノベーションに結びつくかについて深く考察する機会を与えてくれました。

また、現地のシリアルアントレプレナーを訪問し、彼らとのパネルディスカッションを通じて、事業機会の発掘から組織作り、資金調達、マーケティング戦略、販売戦略に至るまでのビジネスのプロセス全体を学びました。彼らの経験を直接聞くことで、スタートアップの立ち上げから成長に至るまでの具体的なステップを理解することができました。

プロジェクトの一環として、日本の大手企業のコーポレートベンチャーキャピタルを支えているWIL社も訪問しました。この訪問では、シリコンバレーにおけるベンチャーキャピタル（VC）の役割や機能について学びました。特に、VCがどのようにしてスタートアップのエコシステムを支援し、投資先の企業に対してどのような支援を行っているのかについて、具体的な事例を交えて説明を受けました。

また、シリコンバレーのアクセラレーターであるPLUG AND PLAY社を訪問しました。ここでは、アクセラレーターが果たす役割や、日本企業がどのようにシリコンバレーで新規事業を開発しているかについて理解を深めました。さらに、スタートアップエコシステムを構築するために必要な政策や支援策についてのディスカッションも行い、日本における新規事業支援の在り方について考察しました。

このプロジェクトを通じて、シリコンバレーの新規事業エコシステムに関する理論的知見と、実務に基づく実践的な洞察を得ることができました。アカデミックな視点からは、スタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校のスタートアップ育成プログラムを学び、異なる教育アプローチを比較することで、日本におけるエコシステム構築の可能性を探ることができました。一方、実務的な視点では、現地で活躍する起業家やベンチャーキャピタルの役割を理解し、イノベーションがどのようにして生まれ、成長していくかについて具体的な知見を得ました。

このように、アカデミックな視点と実務的な視点を交えた総合的な学習を通じて、日本とシリコンバレーの新規事業エコシステムの違いを明確に理解し、その構築に向けた貴重な示唆を得ることができました。

今後の活用

本プロジェクトで得た知見は、今後の大学生活において、研究会や講義、今後のキャリアなどで活用が期待されます。シリコンバレーのスタートアップエコシステムやイノベーションの実践的な手法を学んだことで、研究会でのディスカッションやプレゼンテーションにおいて、具体的な事例をもとに議論をリードできるようになるでしょう。

また、大学内のプロジェクトや今後のキャリアでも、リーダーシップや問題解決力を発揮し、シリコンバレー流の柔軟な発想を実践することが期待されます。さらに、学んだベンチャーキャピタルやアクセラレーターの知識をもとに、スタートアップやビジネスプランコンペティションへの挑戦を通じて、実践的な経験を積む機会が広がることを期待しています。

謝辞

このプロジェクトの実施にあたり、慶應SFC学会からの助成金を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで、学生たちは貴重な学びの機会を得ることができました。また、保田隆明教授をはじめ、指導教員の皆様、そしてプロジェクトの準備・実施にご尽力くださったすべての関係者の皆様に深く感謝いたします。皆様のご支援とご協力のおかげで、プロジェクトは成功裏に終了いたしました。今後も学生たちが成長できるよう、引き続き研究会全体として努力してまいります。